

# 成田ロジで放射線検査

## にしてつ 希望する顧客貨物も

西日本鉄道国際物流事業本部(にしてつ)は11日、成田空港外で運営する「成田ロジステイクスセンター」(千葉県山武郡)で放射線検査を開始したと発表した。同センターで毎日、

線量を測定、顧客に情報提供する。初日の11日は午後1時半に測定し、新館1階の貨物搬入出口で毎時0・11時、シールベルト、12日は午前9時に同箇所0・14時、シールベルトとほぼ平常値並みの数値を記録した。貨物への検査は希望する顧客のみに実施して結果報告。水際で検査を実施すること、貨物の信頼性を高める。

### 「2011年度の経済と貨物国際貨物輸送量の成長予

	10年度	11年度(当初予測値)	
		上期	下期
外貨コンテナ貨物輸送量	10.3	4.8	5.4
(フレート)	輸入	8.7	5.8
	輸出	11.6	5.1
国際航空貨物輸送量	14.4	3.5	4.5
(ト)	輸出	13.4	5.3
	輸入	15.5	3.8

注1. 数字は前年同期比増減率%  
 注2. 原系列、世界経済成長は日本を除く実質・暦年ベース  
 注3. 10年度は実績見込値。11年度(当初予測値)は大改定値は、3月末時点における情報をベースとした予

11年度の補正予算規模が10兆円超となることを想定し、同年度の日本の実質GDP成長率を当初予測の1・7%から0・2%・0・7%に、鉱工業生産指数(05年=100)を

GXSは世界最大の統合クラウド「GXS Trading Gateway」を運用する統合サービスの世界的なプロバイダー。4万社超の顧客ネットワークを持ち、物流では邦船大手やマースクライン、APLなどの船社を中心に世界の物流企業1600社

# MTIの物流技術戦略

## 下



衝撃にさらされるコンテナ貨物の輸送品質の維持・向上だ。まず、

中国と日本間を秋口に輸送した、コンテナ内の湿度変化を示すグラフを見せてもらった。すると、中国の倉庫、コンテナヤード(C

に、メーカーとの共同開発で、コンテナ天井部の結露が貨物に滴下することを防ぐ「CTシート」や、輸送中や荷役中に発生する振動・衝撃から貨物を守る「防振パレット」を開発。さらに、ドライコンテナ内部の高温化を抑える商品の開発

めの施設も備えている。横浜・新杉田の実験施設に設置されている「MCS Multi Cargo Simulator」は、コンテナ貨物が船、トラック、鉄道による輸送で感じる振動や、マイナス15度からプラス80度までの温度変化を再現できるシミュレータ

MTIの社員構成は、郵船の技術部門や海務部門からの出向者とプロパー社員で、研究員は50人強。「ほかの業界出身

# 輸送品質の維持・向上支える

MTIは海運会社の根幹となる輸送品質に関わる役割も大きい。「郵船グループの物流営業に付加価値をつける」と田村健次シニアテクノロジオフィサーは

写真は説明する。20年以上前から取り組んでいるのが、輸送中にさまざまな温度、湿度、振動・

コンテナ内での起こる現象は分かった。その次に検討したのが対策だ。これまで

も進めている。また、コンテナ内の温度変化や結露の仕組み、振動・衝撃の対策などを「輸送技術ハンドブック」としてまとめ、コンテナ営業のツ

1. 1995年に設置されたMCSは、当初は想定していなかった事務機器などの耐震評価、免震装置の機能評価にも活用され、高い評価を得ている。

輸送時の実態把握を行う客と現場に密着して進める技術開発が、郵船グループの技術力を支えている。